

VI 調布なないろ保育園

第1 基本方針

子どもの育ちや子育てに関わる社会の状況は、少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化の進行、共働き家庭の増加等を背景に様々な課題が拡大、顕在化してきた。子どもが地域の中で人々に見守られながら群れて遊ぶという自主的な育ちの機会が減り、乳幼児と触れ合う経験が乏しいまま親になる人も増えてきている一方で、身近な人から子育てに関する協力や助言を得られにくい状況にある地域家庭も多く、子育てに対する不安感や負担感、孤立感を抱く人は少なくない。

そこで、本園では、昨年度までに乳児クラスの小グループ化や、幼児クラスのクラス運営、異年齢活動で蓄積してきた「子どもが、自ら人や環境に関わる力を養っていく」ことをさらに具現化し、園児だけでなく、一時保育利用児、地域家庭を含めた個々の家庭に寄り添い、保育所保育指針、園目標に基づき保育実践を行っていく。そして、園児や保護者が保育園での生活を終えてからも、地域でより良い関係が保たれるように、「保育講座」「保育参加」「お父さん集まれの会」「地域交流」等の在り方を再度検討し、園と家庭が相互に関わっていく姿勢を構築する。

また、昨年度、定期的な園内研修の中で、保育を実践していくうえでの課題が明確になってきた。解決方法を提示したり、そのための行動をリーダー層が示唆したりするだけでなく、そこに保育の可能性や夢を仲間と語り合えることの楽しさや必要性を個々の職員が感じている。そこで、積極的な職員集団へとさらに成長し合っていく機会を、園内研修を基盤に継続して取り組みながら、他園への計画的な見学や、外部研修への参加、また保育士養成校の保育実習だけでなく、他学部との学生との交流等を通して視野を広げていく。

さらに、事務軽減や休憩保障、家族参加の実施を進め、一人ひとりがライフワークバランスを保ちながら働き甲斐のある職場を作っていく。

第2 経営目標

地域家庭が利用する地域交流事業の園庭開放や離乳食講座を前年度より10パーセント回数を増やし実施する。

また、前年度5回開催した園内研修の内容をさらに深め、7回以上開催して、保育の質を高めていく。

第3 重点事項

1 主体性を育む保育

子ども達が主体的に人や環境に関われるよう、「連続性」を意識した働きかけや、そのことにより得た成果や課題を振り返りながら構築していく。

(1) 乳児クラスの取組

乳児クラスは、グループ保育、少人数保育を行うことにより、子どもに携さわる大人が子ども一人ひとりの欲求を受容し、愛着関係を丁寧に構築していく。その中で、子どもが安心して過ごせる環境を意識的に構成し、生活や遊びの充実を図る。

さらに、昨年度実施した担任交換を、本年度も子どもが安定した時期に行い、職員間で子どもの育ちを共有したり、他クラスの保育運営の良さに気づく機会を設けたりし、保育の質の向上へと繋げていく。

(2) 幼児クラスの取組

昨年度積み重ねてきた「自分で考えて行動」することの働きかけで、子ども達が自発的に生活する力や、遊びを展開する創造力が培われてきている。

本年度も引き続き、一人ひとりの個性を大切にしたい遊びの取り組み、柔軟な異年齢交流をさらに深め、子ども達が自信を持って様々なことに挑戦できる環境設定を行っていく。

2 子育て支援の充実

(1) 在園する家庭の保護者支援

子どもの成長の様子を保護者に伝える重要性を理解し、保護者との日々のコミュニケーションを大切にする。また、保護者へのお便りや連絡帳などで、小さな発見やエピソード等をわかりやすく伝え、興味を抱いてもらえるような情報発信の工夫をしていく。それらを通して、子どもを間に保護者が安心して楽しく子育てができるよう支援を行っていく。

また、園長、主任、副主任、専門、分野リーダーで構成する拡大リーダー会議を定期的に行い、家庭状況を含めた園内の情報共有、保育に対しての意思疎通を図り、一人ひとりが的確な保護者対応に努め、保護者との信頼関係を構築する意識を高める。

(2) 地域子育て支援

園庭開放やマタニティーサポート事業は、保護者が気軽に参加でき、保育園とのつながりが持てる重要な機会であり、保育園に特化した専門的な支援ができる場である。

また、一時保育事業は、保護者の就労やリフレッシュだけでなく、育児疲れによる母子分離の必要性等、子育て支援の重要な役目を担っている。そこで、園庭開放やマタニティーサポート利用家庭を一時保育登録へつなぎ、それぞれの家庭に合った長期的な支援を実施する事で各家庭が子育ての自信をつけていけるように援助する。

3 研修の充実

(1) 園内研修の充実

保育の充実を図るため、保育所保育指針の定期的な読み合わせを適宜行い、個人だけでなく集団での理解を深めていく。また、日々の保育の中から身近な実践事例を取り上げ、職員自身が主体的に園内研修に関わる中で、保育の楽しさや課題を知り、学び合う研修形態を設定していく。

(2) 外部研修の参加

保育の質の向上を図るため、自分の良さや課題を把握し、専門性の向上や社会動向の理解などを積極的に外部の研修に参加し、学ぼうとする意識を高める。

また、理想的な保育実践を行っている園の見学を計画的に実施し、学んだことの報告会を行うことで、自園の振り返りへと繋げていく。